

コベルコ建友会の皆様お元気ですか。島川 望の故郷の紹介です。

懐かしの我が故郷の一つに伊賀市平松宿があります。

と言っても私は住んだことが無く父親の生まれ故郷で、子供時代に毎年夏休みに伯母さんに預けられていとこ同士で楽しく過ごした思い出のある場所です。



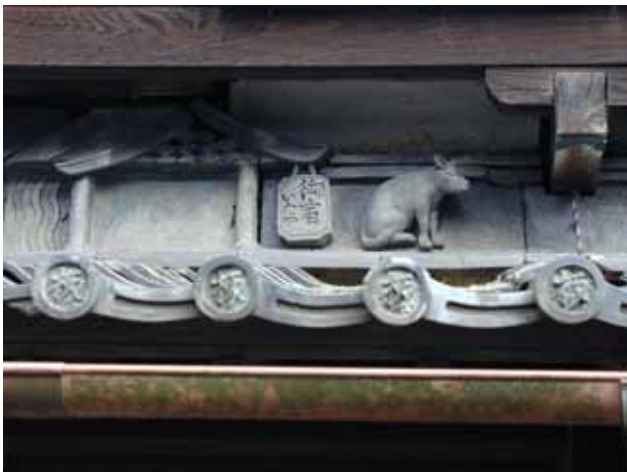
旧住所を三重県阿山郡大山田村大字上阿波と呼んだが平成の大合併で三重県伊賀市上阿波と改称された。

昔は近鉄大阪線の伊賀神戸駅で伊賀線(現在伊賀鉄道)に乗り換えて上野市駅で降り、そこでバスに乗り換えて約1時間、服部川沿いに山の中へ入ったところに平松宿と昔呼ばれた旧宿場町があります。

現在なら名阪国道上野東 IC から上野市街に入り国道163号線(伊賀街道)を服部川沿いに20分程東方向に山の中へ入って“上阿波”と言うところでちょっと川沿いに入ったところ。

そのほぼ中心に“板屋”と呼ばれる旅館があり、そこが父親の生家です。

“平松宿”というのは江戸時代、津藩主の藤堂家が伊賀上野城に城代家老を置いて津と上野の行き帰りに本陣などを置いて栄えた宿場町です。



現在の旅館“板屋”は明治時代に何回かの火災に見舞われたあと大正初期に立て替えられたそうで、市当局によると“古さ”が足りなくて指定保存建物とはならないそうです。

従い所有者である従兄は補修費用が大変とこぼしています。

昭和40年頃までは伯母さんが細々と旅館業を営んでおられて女学生等が旅行雑誌の紹介で宿泊に来たそうです。

その伯母さんも亡くなり、今は従兄の所有となっているが空き家です。

この旅館「板屋」はインターネットにも度々「街道沿いの宿場」として掲載されていて、また地元の子供達の写生の対象にもなっています。

特に正面の欄干下に見られる鬼瓦は様々な七福神になっており文化的価値があると私は思うのですが。

最近奈良県今井町、中山道妻籠宿、馬込宿など街道沿いの町並みを訪れるブームとなっていますが、この伊賀街道平松宿はその中で忘れられているようで寂しい限りです。

インターネット(“伊賀市平松宿”で検索)でも「保存の手を差し伸べて欲しい」とマニアの声が掲載されています。

コベルコ建友会の皆さん、機会があれば一度足を運んでみてください。

